

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	こどもサポート教室「きらり」 草津駅前校		
○保護者評価実施期間	2024年 11月 1日 ～ 2025年 1月 31日		
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	44	(回答者数) 30
○従業者評価実施期間	2024年 11月 1日 ～ 2025年 1月 31日		
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6	(回答者数) 6
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 2月 15日		

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	子ども達1人1人に寄り添った支援の提供。 (保護者様からのニーズはもちろん、その子の特性や発達段階を把握し、その子に合った支援プログラムを実施。)	支援準備時や支援後に、担当指導員間で情報共有を行っている。 モニタリング書類を参考にするだけではなく、支援中の子どもの様子を把握し、柔軟に対応している。	担当指導員間だけではなく、定期的な校内MTで全員で情報共有を行い、多角的な視点から支援内容を検討する。
2	保護者様へ本日の支援で取り組んだ内容及び、取り組んだ際の子ども様子や結果を共有することで、行った支援プログラムの意図を伝えている。	教材の使用方法及び、取り組むことによって得られる効果を理解することで、同じ教材でも様々な使用方法で支援を行っている。 ポジティブフィードバックを行っている。	新しい取り組みの提案や、教材の使用方法に関する質問及び、回答で理解を深めていく。 アセスメントの更なる理解に努める。
3	子ども達が安心して楽しみながら通い、支援に取り組んでくれる環境がある。	常に笑顔を手掛けている。 子ども達関わる中で、否定ではなく肯定の意識を持ちながら支援を行っている。	気持ちの面だけではなく、教室の設備の安全面や支援終了後の対応を更に検討し、支援の入れ替わり等をスムーズに行っていく。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	放課後児童クラブ、児童館、他事業所に通所している子ども達と、「きらり」に通所してくれている子ども達との交流はなかなか行えていない。	放課後児童クラブ、児童館、他事業所の子ども達と交流を持つことによって、得られる効果について十分に理解が出来ていなかった。	まずは利用者様のニーズの把握から実施。 放課後児童クラブ、児童館、他事業所様との交流を図っていく。
2	保護者様同士で交流する機会の提供や、ペアレント・トレーニング及び、発達に関する研修の機会の案内も少ない。	児童発達支援では行えている小集団支援が児童発達支援に比べると少なく、保護者同士が集まる機会が少ない。 ペアレント・トレーニング及び、発達研修に関しての専門的な知識が足りない。	小集団支援を増やす検討及び、保護者様のみのイベントの検討を実施していく。 ペアレント・トレーニングや、発達研修の機会の把握。
3	利用者様へ事故防止、緊急時対応、防犯、感染症対策等の会議及び訓練実施等の周知及び、説明が十分ではない。	契約時、面談時、FB時のみの説明で周知出来ているつもりになっていた。	各マニュアルを廊下等の目に見えるところ掲示し、周知をしていく。 訓練については子ども達も一緒に取り組む検討もしていく。 (より実際の場面をイメージした訓練)

公表

保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名 子どもサポート教室「きらり」 草津駅前校

公表日 2025 年 2 月 15 日

利用児童数

44

回収数

30

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	2025年 1月 31日	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
環境・ 体制 整備	1	こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	25	5				これまでの取り組みを継続。
	2	職員の配置数は適切であると思いますか。	28	2				職員が欠席の時の配置数の改善が必要。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	22	7	1		入口の階段に注意が必要。	支援の一環として、指導員が子ども達の誘導を行い、注意を促していく。 上記を実施しながら、子ども達に先を見る力をつけてもらう。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	27	3			小さい子は遊び、大きい子は勉強なのに、同じ空間の為うるさかったり、遊びがなくなったりする為、別の空間だったら良いのと思います。	騒がしい環境の中で、どうやって集中していくのかの支援内容を考え、実施していく。
適切 な 支 援 の 提 供	5	こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	27	3				これまでの取り組みを継続。
	6	事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	24	4		2		これまでの取り組みを継続。
	7	こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、放課後等デイサービス計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	28	2				これまでの取り組みを継続。
	8	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	26	2		2		これまでの取り組みを継続。
	9	放課後等デイサービス計画に沿った支援が行われていると思いますか。	27	2		1		これまでの取り組みを継続。
	10	事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	27	3				これまでの取り組みを継続。
	11	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会がありますか。	7	3	13	7	機会に参加出来ていない。 そういった活動の連絡がない。	まず保護者様からのニーズを把握し、実施していくのかの検討、企画内容の検討等を行う。
保 護 者 へ の 説 明 等	12	事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	30					これまでの取り組みを継続。
	13	「放課後等デイサービス計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	30					これまでの取り組みを継続。
	14	事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	14	2	9	5		まずそういったプログラムや、研修が行われているかの把握、内容の把握が必要で、情報収集をする必要がある。
	15	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達状況について共通理解ができていますか。	26	4				これまでの取り組みを継続。
	16	定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	24	6			支援担当の先生とは毎回お話するが、上の方とお話する機会が少ない。	FBや、面談だけではなく、指導員との情報共有から、こちらからの声掛け等を行っていく。
	17	事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	27	3				これまでの取り組みを継続。
	18	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	5	7	12	6		ニーズがあるかどうかの調査を実施。

	19	子どもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	18	7		5		これまでの取り組みを継続。
	20	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	25	4		1		これまでの取り組みを継続。
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されていますか。	22	2	1	5		LINE等を活用しての情報の発信に取り組む。
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	28	1		1		これまでの取り組みを継続。
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	14	8	2	6		各マニュアル等を廊下へ掲示し、周知していただく。
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	8	4	4	14		これまでの取り組みを継続。
	25	事業所より、子どもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	22	5		3		これまでの取り組みを継続。
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	17	3		10		契約時の説明だけではなく、定期的に説明を行っていく。
満足度	27	子どもは安心感をもって通所していますか。	30					これまでの取り組みを継続。
	28	子どもは通所を楽しみにしていますか。	27	3				これまでの取り組みを継続。
	29	事業所の支援に満足していますか。	27	3				これまでの取り組みを継続。

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		子どもサポート教室「きらり」 草津駅前校			公表日		2025 年 2 月 15 日	
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点		
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	6		2025年 1月 31日			
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、 職員の配置数は適切であるか。	6		急遽の職員の欠席に対して対応できるように、十分ではないが支援内容の共有が出来るように、早め早めの連絡を心掛けている。	職員が欠席の時の配置数の改善が必要。		
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	6		スロープ配置の際は、他児が遊具にしてしまわないように伝えている。			
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	6		支援後の消毒や清掃等に、短い時間でも取り組んでいる。	支援後だけではなく、週に1回程度だけでも定期的な清掃が必要。		
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	6		子どもの状況に応じて、個室で環境設定を行っている。			
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	3	3		一部の人のみの話で終わってしまっていることもあり。 定期的な校舎内MTが必要。		
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	3	3		把握する機会があまり持てていない。		
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	4	2		個々に話をしていることが多いため、月に2回ほど定期的に校舎MTを設けて、情報共有をした方が良い。 全体で把握出来ていないのではないかな。		
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	3	3		評価内容や結果を全員が十分に把握できていないところがあるのではないかな。		
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	6					
適切な支援	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	6					
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	6					
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	6		支援後、支援前の準備時に担当指導員間で情報共有を行っている。 モニタリング書類だけではなく、実際に話をするようにしている。			
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	6		支援後、支援前の準備時に担当指導員間で情報共有を行っている。 モニタリング書類だけではなく、実際に話をするようにしている。			
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	4	2	アセスメントの意味を含めた支援内容も行っている。	フォーマルなアセスメント表を使用してアセスメントを取れていない部分もある。		
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	6					
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	5	1	担当指導員間の情報共有を行っている。	個々に話をしていることが多いため、定期的に月に2回ほど校舎MTを設けて、情報共有をした方が良い。 必ず実施出来ていない。		

援 の 提 供	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	6		これまでに取り組んだことのない支援内容の質問を積極的にやっている。	個々に話をしていることが多いため、定期的に月に2回ほど校舎MTを設けて、情報共有をした方が良い。必ず実施出来ていない。
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	5	1	小集団活動の立案を行っている。	個々に話をしていることが多いため、定期的に月に2回ほど校舎MTを設けて、情報共有をした方が良い。必ず実施出来ていない。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	1	5		個々に話をしていることが多いため、定期的に月に2回ほど校舎MTを設けて、情報共有をした方が良い。必ず実施出来ていない。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	3	3		個々に話をしていることが多いため、定期的に月に2回ほど校舎MTを設けて、情報共有をした方が良い。必ず実施出来ていない。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	6			
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	6			
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	5	1		支援内容として準備しているが、なかなか行えない子への対応を、身に付けていく必要がある。
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	6		支援開始時に支援内容のすり合わせや、複数ある支援内容の中から、子ども達に選んでもらう等の工夫をしている。	
関 係 機 関 や 保 護 者 と の 連 携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参加しているか。	6		主にその子を担当している指導員及び、児発管が参加している。	
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	5	1		
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	4	2	保護者様から依頼があった時には行っている。	こちらからの声掛けは少ない。
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	3	3	保護者を挟んで相互理解出来るように、お話をしている。	
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	3	3		情報共有の場が少ない。
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	4	2		
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	1	5		地域の子どもの活動する機会が少ない。
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	2	4		積極的ではない。
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	6		支援後にその日の支援の子どもの様子を伝えることで、状況の確認をしている。	
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	4	2		ペアレントトレーニングがもっと必要だと思われる。
	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	6		利用契約時に説明を行っている。	
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	6		FBや面談等、機会を設けている。	
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	6		面談等で行っている。	

保護者への説明等	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	6		FBや面談等、機会を設けている。	
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機械を設ける等の支援をしているか。	1	5		児発では設けられているが、放課後等デイサービスでは、あまり設けられていない。
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	6		こちらからも相談の機械等を提案している	
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	6			
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	6			
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	6			
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	2	4		地域住民との交流は少ない。
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	6			
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	6			職員のみの訓練になっている為、子どもと一緒に訓練もしてくべきだと思う。
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	6			
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	2	4	保護者へは確認をとっている。	医師の指示書に基づいているかは不明。
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	6		研修内、訓練内でも様々な質問を出すようにしている。	
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	4	2		家族への周知は出来ていないと思う。子ども達と一緒に訓練を行うことで知らせていけるのではないか。
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	6		欠かさず行っている。	
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	6		欠かさず行っている。	
	54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	6		欠かさず行っている。	行っているものの、定期的には出来ていない。